

如自当知

磯野

今年もお念仏申す新しい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

今から七百年程前、兼好法師の「徒然草」の中に、友人として相応しくないものが七つあると書かれてあります。

その中で嘘つきと欲張りの二つは誰でも納得しますが、他の五つに興味がそられます。第一は身分の高い尊い人、第二は若い人、第三は病気をしたことがない頑健な人、第四は酒好きな人、第五に勇猛な武士です。

これらに共通するのは、自分中心に物事を考えやすく、自分の欠点や失敗を見直すことも少なく、相手の気持ちや立場を思うことが乏しいことだと思います。

自分は偉いぞ、有名だぞ、能力があるぞ、体力があるぞ、だから自分に反対することは間違っていると威張り、相手の意見を聞こうとしない人であれば、友人に相応しくないと言うよりも、友人ではありません。

しかし私には、そのような傾向はないでしょうか。これは全く他人事でしょうか。どうもそうとばかりとは言い切れません。

今の私は若くもなく、能力もなく、有名でもありません。しかし、まだまだ私だってという自惚れが残っています。

兼好法師の言葉は一般論であるとともに、私に対して言っていることに気づくのです。

本当の私を知ることはとても難しいことです。しかし自分を知ることは大切なことです。

価値ある、意味ある人生を過ごすために、この一年も初心に帰り仏法を聴聞し、多くの方々と慶びのお念仏を共にしたいものであります。